

2022年度 小樽歯科衛生士専門学校
学校自己評価

1、学校の教育目標

＜教育理念＞人間性豊かな歯科衛生士として、地域の保健医療に貢献できる医療人を育成する
「愛と知と技を備えた」

2、評価項目の達成及び取り組み状況、今後の改善方を下記基準により点数評価する
適切：4 ほぼ適切：3 やや適切：2 不適切：1

(1) 建学の趣旨と教育の方針 評価値：3

- ・学校の建学の趣旨と教育の方針の学生、保護者等への周知について
文書、HP等を通じて周知を図っていく

(2) 学校運営 評価値：3

- ・教育理念に沿った学校経営方針について
教職員の更なる連携が必要で、より改善していく。
歯科医師会との情報の共有、連携をより強固にしていく
- ・就業規則、人事労務管理等の整備について
就業規則を作成し、運用している。
教職員の勤務状況等（勤務時間、出欠勤、休暇、出張）においては、
出勤簿、届書、願い等が適切に提出され、記録、保管されている。
- ・コンプライアンスについて
学生や保護者に対し、学校の発信物に記載する際の個人情報の保護
について許可の書類提出を求めている。（不同意も可）
改正民法に対応した誓約書・身元保証書を全学生が提出している。
- ・情報公開、情報システムについて
学校ホームページに公開中

(3) 教育活動 評価値：3

- ・教育課程の編成について
規程授業時間数を確保している。
授業担当教員、歯科衛生士教育に適した人材の確保に取り組む。
- ・教育指導方法について
教育内容充実の為、教員相互の情報、意見交換に取り組む。
グループ学習やアクティブラーニングの手法を取り入れる。
- ・教育課程の実施について
講義、校内実習、校外実習ともに感染症対策のため、内容の
変更があったが、原則対面授業を実施した。
オンライン授業の導入を一部開始した。
実習先との連絡を密にし、実習先からの意見も取り入れる。
臨床実習には週1度、学校にて抗原検査を実施してから出席させる
ようにした。（5類移行予定の来年度からは休止予定）
- ・成績評価について
出席状況を的確に把握、管理し、受験資格の有無確認を確実にやっている。
試験終了後の成績会議を、本試験後、再試験後、再々試験後に
開催し、公正に判定を行い、進級、卒業認定を行った。
校外実習は、実習指導者による評価を実施している。
学生に問題があれば、学校に連絡をいただき、連携して指導にあたった。
- ・教員の資質向上のための取り組みについて
Web専任教員研修会へ参加した。
5類移行後の来年度は、その他研修会への参加を検討する。

(4) 学修成果 評価値：2.5

- ・国家試験について
11月から試験対策講義を開始し、1月より夜間、土曜日の補講を実施した。
試験への取り組みについて、更に指導を強化する必要がある。
- ・退学者について
入学前教育として、オリエンテーションを1回開催、課題を2回実施した。
随時個人面談、3者面談を行った。
1年生4名、2年生2名、3年生1名が退学した。
学生のモチベーションを高めていく必要がある。

進級時の習熟度を厳正に判断していくことが必要である。

・就職について

卒業生1名が留学し、23名が就職した。一部学生の就職内定が遅くなった。求人情報の開示時期や医院見学、面接開始時期を検討する。

・卒後の学生のフォローアップについて

小樽市歯科医師会、本校同窓会と連携し、卒業後の動向等の情報を共有化し、リカバリー事業などへの参加につなげる。

(5) 学生支援

評価値：3

・進路、就職について

就職希望調査を行い、担任教員が個人面談で詳細を聞き取り、希望に合わせた指導をしている。

・学生相談について

担任教員との個人面談や、教務職員を含めた面談を行っている。

・経済的支援について

小樽市歯科医師会奨励金、一人暮らし支援制度、遠距離通学支援制度
社会人支援制度それぞれの支援を行っている。

・健康管理について

健康診断の実施、B型肝炎の抗原抗体検査、ワクチン接種を行っている。
感染症対策を徹底するように指導している。

・保護者との連携について

定期的に、出欠状況や近況を記した文書を発信している。
学校生活全体の様子や取組みを載せた文書の発行を検討する。

・卒業生への支援について

歯科医師会主催のリカバリー事業への参加を、同窓会とも連携し
より充実させていく。
求職の問い合わせがあれば、相談や再就職を支援している。

(6) 教育環境

評価値：3.5

・施設、設備の整備について

実験室暖房設備等の古くなった設備の更新を行った。
ZOOMを導入し、一部オンライン授業を行った。

・実習施設との連携について

実習場との、より一層の連携が必要である。

・防災体制について

避難訓練を実施している。(感染症の状況を鑑み3月に1回実施)

(7) 学生募集

評価値：3

・学生募集活動について

高校訪問、進学相談会への参加、オープンキャンパスの開催などは、感染症
の影響をうけ、例年通りには行えなかった。結果新入学生は19名と減少した。
感染症の5類移行が決定したので、来年度は、感染症の状況に注視しながら、
再開できるもの、新しい時代にそったものを考え、努力を続ける。

・広報活動について

感染予防対策として、おたるワークステーション、小樽商科大学の学園祭、
潮まつりが中止となるなど、広報活動の場が著しく制限された。
5類移行後の対応は、各々と協議して新たな方法での開催を模索したい。
SNSによる学校生活等の情報発信を広げる努力をしていく。

・学生納付金について

口座振替納入に変更。一部の学生を除き、期限内に納入されるようになった。

(8) 財務

評価値：3

・中期的な財政基盤について

新入生の数が2年続けて減少したため、収入が減少することが予想される。
次年度以降の学生増が絶対的に必要となる。
設備維持費の増額を検討する必要があるかもしれません。

・予算、収支計画について

現状に即した計画を立てている。

・会計監査について

年2回、適正に行われている。

・財務情報の公開について

ホームページにて公開している。